

平成18年12月21日

西日本鉄道株式会社
代表取締役社長
長尾 亜夫 殿

西鉄宮地岳線の存続を求める会
会長 古原 拓治
事務局 福津市在自 1581-18
TEL 0940-52-4447

公開質問状

西鉄宮地岳線の一部区間廃止の突然の公表は、毎日の通勤、通学等生活の足として慣れ親しんできた沿線住民にとって、まさに寝耳に水、大きな驚きと衝撃をもって迎えられました。住民の間では、これからの交通手段への不安が大変強くなってきております。

西鉄宮地岳線は、80数年という永い歴史の中で沿線の住民の生活と地域の発展に関わり、ともに歩んできたところであります。

公共交通機関として事業を運営される貴社には、西鉄宮地岳線の存続を求める6万4,000名を超える署名もあり、廃止の方向に至ったこれまでの経緯と実状とさらにこれからの代替交通について、住民に対して直接、説明と理解を求める機会をと是非とも願っておりましたが、市が主催した、いくつかの住民説明会にも貴社の出席がなく、市当局等を通じて一部情報が提供されるに留まっております。

このため、沿線住民にとって極めて重要な交通手段のあり方について関係機関で協議がなされておりますが、直接貴社に対して、沿線住民の切実なる思い、疑問等について、ここに改めて公開のもとに質問することに至りました。

1. 西鉄宮地岳線が果たしている役割について

「沿線地域住民における宮地岳線の重要性と地域資産及び背景」

- ◆特に旧津屋崎町は若者の流出に比して新たな居住者の流入があり、総人口は減とはなっておらず、その一つの要因は西鉄宮地岳線が存在していることにあるとされている。
- ◆日常の通勤、通学等の交通手段としてスピード化が求められる時代にも拘わらず、現在の利用者はJR等と比較し、最も必要な交通手段として利用している。

- ◆合併直後の福津市は新生自治体として、地域の特性を生かし、交流人口の増加を目指した活性化方策を検討しているところである。
- ◆廃止予定の沿線、特に津屋崎地域は豊かな自然、伝統、文化、歴史を保有し、福岡都市圏の人々にとって、現代が抱える課題である健康志向、環境問題、心の豊かさに対する問題等の解決、さらには地域経済の活性化、高齢化社会の到来による諸課題の解決に必要な共有財産として、益々重要な地域的役割を担ってきている。
- ◆ 鉄道運営が厳しい南海電鉄・貴志川線、越前鉄道、銚子電鉄等先進地の事例では、運営企業の支援を得ながら地域と住民が一体となって、特産品の販売のほか、イベントの実施等、懸命な経営努力がなされている。

〈質問事項〉

- ◎今後の乗降客数のシミュレーションにおいて、時代背景として現代が抱える課題解決のため、癒し、健康、ふれあいを求める利用者が増加していますが乗降客数値等について考慮されましたか。
- ◎これからの公共交通機関が求められているのは、沿線自治体の地域活性化と経営改善方策のもと自治体、住民とともに貴社が一体となって、我が町の鉄道として取り組む必要があると思うが、どう考えますか。
- ◎「西鉄宮地岳線代替交通確保調整協議会」での第三セクター方式や市民鉄道等、他の存続経営手法を検討する上で貴社鉄道敷地・設備等資産の取扱い方で上記先進地のような「地域貢献的協力や譲歩」の考慮はされましたか。
- ◎「西鉄宮地岳線代替交通確保調整協議会」の席で福津市長からの「西鉄の住民説明」の要請に対し応じない理由をお聞かせください。

2. 代替バス整備に伴う J R 福間駅への接続について

- ◆ 西鉄宮地岳線の廃止の方向に対し、当会において、現利用者の今後の動向について聞き取り調査を実施した。その結果次のような重要な特徴的なデータを得ることができた。（調査サンプル数 237名）
 - ① J R 福間駅の利用者が極めて多くなること 59.6%
 - ② J R 福間駅への車による送迎が多くなること 25.7%
 - ③ J R 福間駅への自転車利用が多くなること 15.2%
 - ④利便性悪化により退職（7人）転出転居（5人）を考えている。

- ◆ JR 福岡駅の駅舎改築工事は新駅舎への機能移転時期として平成 21 年春、平成 22 年度中供用開始を目標として整備が進められております。現時点で JR バス、コミュニティバス、タクシーさらに送迎用車で大変な混雑を極めており、さらに上記の影響が加わり危機的状況が予想されます。以上のことから、自治体としては、新駅舎への機能移転及び周辺の整備が整うまでの間、廃線の延期を願い、厳しい財政状況にもかかわらず、福津市から年間赤字相当の 4 億円負担の申し出がなされたとのことである。

〈質問事項〉

- ◎宮地岳線廃止に伴い利用者の利便性が損なわれないよう色々なルートが検討され、特に JR 駅への接続増便案が示されていますが、現状の混雑に加えて駅構内への乗り入れ等駅舎改築工事計画に対し、代替交通事業責任者として駅周辺の交通事情をどのように考慮し、計画され安全性の確保を図ろうとされているのでしょうか。
- ◎乗降客の安全確保の責任と義務を負う公共交通機関として代替交通を検討するにあたって、この駅舎改築工事完了まで西鉄宮地岳線廃止を延期する等の配慮は出来ないのでしょうか。

3、西鉄宮地岳線廃止に伴う軌道敷地の対処について

- ◆交通手段の確保という切実な願いのもと鉄道誘致にあたって地域の全面的な協力で軌道敷地の無償譲渡がなされた経緯がある。
- ◆鉄道の廃止にあたって、これまでの先進地の事例では利便性を損なわないこれはもとより、それ以上に機能が考慮された代替交通のルート整備がなされたり、特に鉄道敷地はバス等自動車道路として活用された事例が多い。

〈質問事項〉

- ◎廃止の方向の路線は、北部九州の鎌倉、湘南といわれるほど風光明媚な海岸線を走っており、この鉄道敷地をバス専用道路として関係自治体とともに整備する考えはないのでしょうか。
- ◎56 年前、津屋崎地域まで延長するにあたって、宮地岳駅から津屋崎駅までの間は地域地権者の協力により軌道確保のため私有の土地を無償譲渡された経緯があり、先人達の切実な願いがこもった、この軌道敷地の今後の対処はどうされるのでしょうか。（低価格譲渡等）

◎上記軌道以外の関連敷地確保にあたっても同様な動きがあったと考えられるが、その実態はどうなっていますか。

※ 公共交通機関として携わっておられる貴社には利用者の実態から運営の中でこれまで維持、存続していただいたことに対し、改めて感謝申し上げます。
しかしながら、沿線地域と住民にとって生活の足として、また地域活性化の最適な交通機関であり血路が失われることは、これからの生活上の致命的かつ大変重要な問題であり、鉄道事業法の目的をも踏まえ、是非とも誠意あるご回答をお願いするものです。

たいへん恐縮ですが平成18年12月29日までにご回答ください
また、ご回答内容は公開させていただきますのでご了承ください

以上